

GEOTAIL 射場での思い出

元 宇宙科学研究所 橋本正之

1992年5月～7月、フロリダ州のNASA ケネディ宇宙センターで GEOTAIL 打ち上げ作業に参加した。そこでは内之浦での打ち上げ作業では経験しなかった様々な文化の違いを体験できた。

1. ネクタイはちょん切るぞ！

ケネディ宇宙センターを最初に訪問した時のことである。初日なので全員ネクタイを着用して打ち合わせに望んだ。アメリカ側の担当者は我々の格好を一目見て、「明日からネクタイをしきたらハサミでちょん切るぞ！」と我々の暑さへの我慢を見抜いて温かい言葉で迎えてくれた。一方、休憩などで室外の日よけ付き休憩所で雑談中には「おまえ、そんな日影に引っ込んで居ないで、遠慮せずに陽の当たるここに座れ！」と強烈な日差しの場所を本気で勧める。そういえば、真昼の浜辺で、生まれて未だ1年位と思われる赤ちゃんをガンガン照りの日差しの中で平然と寝かせている光景を何度も見た。この感覚は未だに理解に苦しむ。

2. GEOTAIL：射場内飛行場へカッコヨク直接搬入！ だが・・・

着陸後もなかなかその姿を見せない。一体どうしたのだ！ 実はジャンボ機改造の輸送機のドアが開かない。かなりの時間を費やしてやっと勇姿を見せた。この間、何も出来ない GEOTAIL 関係者は滑走路の片隅でたっぷり日光浴をすることとなった。ハイテクには思わぬところに落とし穴があるらしい。



GEOTAIL 射場滑走路へ到着、輸送機のドアも無事開いて記念撮影

3. アメリカ式衛星の警護

フロリダの射場は広大だ。衛星の様々な試験は射場内に分散する各種試験設備を使って実施される。このため GEOTAIL は広い構内を時々移動するのだが、万一を考えて移動中の警備依頼を求めた。銃を持った複数の警備員が移動する衛星の前後を見守る物々しいものであった。さらに移動通路の周りには自然のブッシュに囲まれた沼が点在して、ここにはかなりのワニが生息している。警備効果はどちらが高いか不明である。

4. 射場で車のキーを忘れると・・・

ある日、不注意で車の中にキーを忘れてロックしてしまった。しかもエンジンは掛かったままである。射場内の警備員に相談すると「外からカギ屋さんを呼んでやる」と言われた。射場に入構するためには一時的な入構許可書を発行してもらう必要があり、カギ屋さんが到着するまで2時間近くを要した。この間も入れ替わり立ち替わり何人もの警備員が様子を見に来た。やっと来たカギ屋さんにはビックリするようなお金を支払った。カギ屋さんにしてみれば費やした時間、手間を考えれば妥当な金額と思うが、嚴重な警備というのは高くつくことを実感した。元々は自分の不注意から起こったことだけど・・・。

5. 超朝型シフトと疲労蓄積

南国フロリダの夏は毎日ほぼ決まった時間に強烈なシャワーに見舞われる。すさまじい雷とまさにバケツをひっくり返したような雨が降る。安全確保のため、射場作業は早朝から開始され、シャワーが来る前の昼頃には終える超朝型シフトが敷かれた。朝真っ暗なうちに出勤し、お昼には帰宅となった。結果として、長い午後～夜の時間がある。しかも太陽は夜の8時でも煌々と輝いている。この時間を利用しない手はないと動き回る。私の場合は毎日アパートのプールの1コースを占領して泳ぎ、さらにアパートのプライベート砂浜で楽しんだ。当然夕食も遅くなる。しかし翌朝はいつものように暗いうちからの出勤だ。こんな生活をしばらく続けると体がクタクタになってくる。ちゃんと早く寝れば済むことなのだが、折角こんな楽しいフロリダにいるのにと感じてしまう。正に自業自得である。

6. 打ち上げ時の司令電話はシーン！

GEOTAIL 打ち上げの時は発射台のすぐ側の発射管制室に居た。衛星への電源供給は発射直前までここでコントロールされる。内之浦の発射管制室も何回か経験したが、ここで特に印象的だったのは司令電話の会話である。使われる用語は事前に何回も打ち合わせを行い、かなり限定されている。基本的には余計なことは一言も発するなと言うことだ。実際、発射時の司令電話は静寂とも言えるものであった。多くの情報が行き交う内之浦の場合と対照的である。ここでも大きな文化の違いを実感した。

以上、フロリダでの打ち上げ作業に参加して、特に印象的だったことを幾つか述べた。GEOTAIL は日米共同計画であるためか、射場現場での日本側と米国側の協調関係は極めてスムーズで殆どストレスを感じることなく仕事ができ、これはトップレベルでのマネジメントか

ら現場の担当者に至るまでの全員が前向きの姿勢で、かつ相互の信頼関係が確立されていたことが大きな要因だったように思える。例えば中谷先生と NASA の Mac Grant さんの関係などはその代表と思う。最後に、こんなに楽しい経験をさせて頂いたことに心から感謝します。



日米共同計画のかなめ「中谷先生と Mac Grant 氏」